

西光寺だより

第二四六号 令和四年 十月一日発行

暑い日差しも少しずつ和らぎ、ずいぶんと過ごしやすいい日が増えてきました。涼しくなると聞こえてくるのが虫の声。童謡にもあるように昔から日本には虫の声を楽しみながら、秋の訪れを感じる文化があります。

なんと、この虫の鳴き声を「声」と認識できるのは世界中で日本人とポリネシア人だけだそうです。

これは脳での処理の仕方や母国語に起因しているのですが、他の多くの民族は虫の声は雑音にしか聞こえないらしいのです。同じ音を聞いて、雑音と聞こえるか秋の訪れと聞こえるか・・・。

私たち日本人は「声」と聞き取れる能力に加えて、古来より自然を慈しむ思想が根付いているのだと思います。自然の姿に季節の移ろいを見いだせること、自信をもって伝えたい日本人の誇るべき姿です。

秋は味覚も満足できる季節。美しい夕日に感謝をし、美味しいものをいただいで、虫の声に耳を傾ける。そんな豊かな時間を作っていきたいですね。

忙しい毎日に追われる中で、本当に必要なことは何なのか、本当に大切なことは何なのか、気づくことの出来る時間になるかもしれない。

秋の夜長を楽しんでまいりましょう。



合掌

◆先月の報告◆

①9月15日(木)みのり講・穂積講、大谷本廟墓参を行いました。コロナ禍でありましたが、お参りをすることができました。

また、去年と同様親鸞聖人の月忌に合わせての参拝でしたので、大谷本廟明著堂でのお勤めを聞かせていただきながら、時間を過ごしたことであります。

写真下の僧侶が履いている黒い靴。庭儀の法要の際に履かれるもので浅沓(あさぐつ)といいますが、桐材を彫り全体を黒漆で塗った履物であります。歩き方もありまして、通路をするようにして歩みます。

こういう機会に珍しい僧侶の衣体や履物に関心を持ちながら、手を合わせたことであります。ありがとうございました。



②9月23日（金）西光寺本堂にて、仏教婦人会報恩講を厳修致しました。親鸞聖人のご法事である報恩講、お念仏を通して皆さまで手を合わせたことでありました。ありがとうございました。



③9月30日（金）西光寺本堂にて、秋季永代経法要を厳修致しました。正信偈のお勤めのみでしたが、皆さまとご一緒にお焼香をし、今ののちに感謝する法要を致しました。ありがとうございました。



◆十一月・十二月の行事◆

・十一月 二十三日（水・祝）

報恩講法要

午後二時～ 正信偈

午後三時～ ご法話

西光寺本堂

◎布教使 岡 玲 師（茨木西組 善照寺住職）

※ご法話は一座のみ（昼座だけ）であります。

※午後七時の法要はありません。

※その時の感染状況により内容が変更するかもしれませんが、ご了承ください。

※体調や感染にご不安な方はご遠慮下さい。

・十二月 三十一日（土）

除夜会

午後十一時五〇分～

西光寺鐘楼